

FUJILLOY

東証プライム (6167)

モノづくりを通じて広く社会に貢献する
富士ダイス株式会社

個人投資家さま向けオンライン説明会 富士ダイスの事業と成長戦略



2023年10月

1. 当社の事業概要と特徴
2. 2024年3月期 第1四半期決算概要
2024年3月期 業績予想
3. 中期経営計画における成長戦略
4. 株主還元

01

当社の事業概要と特徴

会社概要（2023年3月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 久保井 恒之
創業	1949年6月
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,118名（2023年3月期末時点、連結）

富士ダイスの企業理念・大切にしている価値観・長期ビジョン

企業理念

- 事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる
- 人間尊重、人間中心の経営

基本的な考え方（私たちが大切にしている価値観）

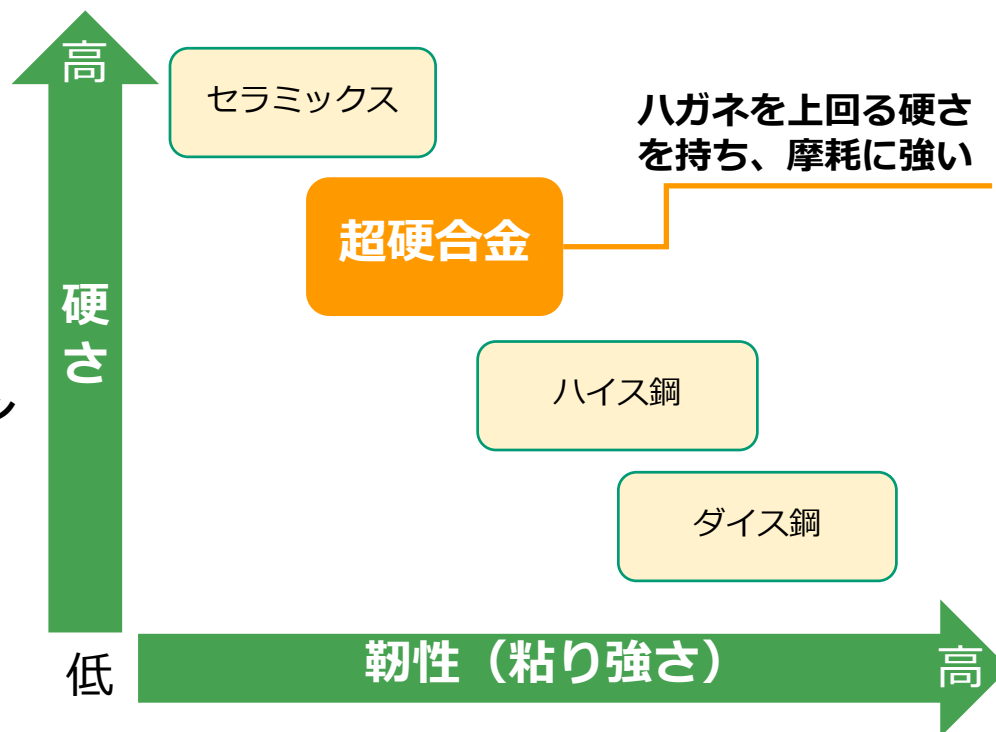
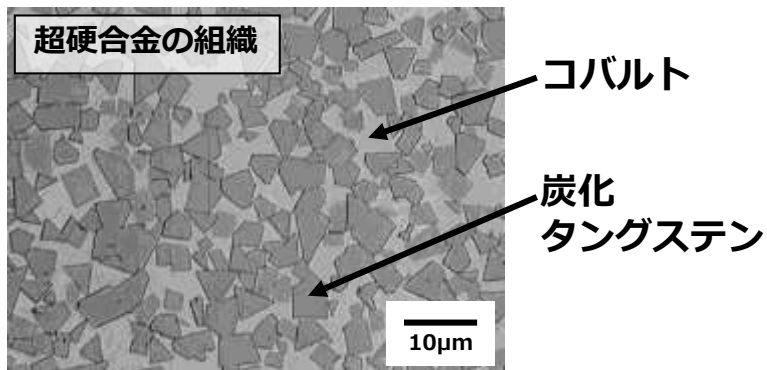
- 報恩感謝
- 和
- 創造と革新
- 誠実
- 質実剛健

長期ビジョン

1. 世界のものづくり界のリーディングカンパニー
2. 品性ある企業グループ並びに企業人

超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



モノづくりを土台から支える当社の超硬耐摩耗工具・金型

自動車



エンジンをはじめ、さまざまな部品の製造ラインに使用

飲料缶・食缶



超合金の高精度な製缶金型で高いシェア

カメラレンズ



スマートフォンや一眼レフカメラレンズ製造用金型に使用

鉄道架線・タイヤ・エアコン・他



パイプ・線材・異形管など、輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等に使用

インフラ整備



人工ダイヤモンド



人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発などに使用

当社の特長

超硬耐摩耗工具市場でトップシェア

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

開発力-生産技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社

長期的成長を担う高い研究開発力（技術力）

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発技術
人手による技術を新鋭設備研究と工法最適化による現行技術との融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

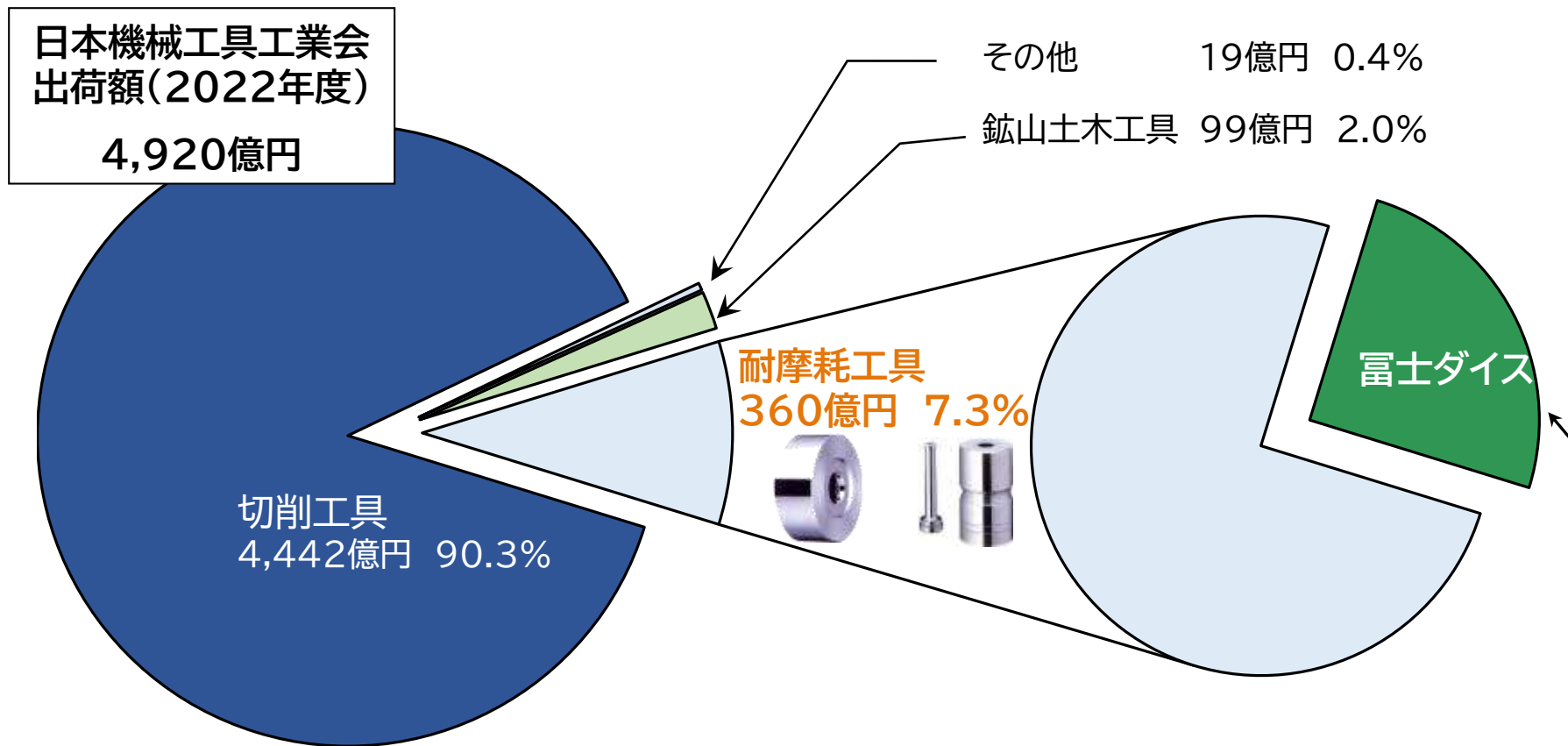
財務基盤：黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持

ネットキャッシュ	7,483百万円
フリーキャッシュフロー	62百万円

自己資本比率
77.4%
(2023年6月末時点)

(2023年3月期)

超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）



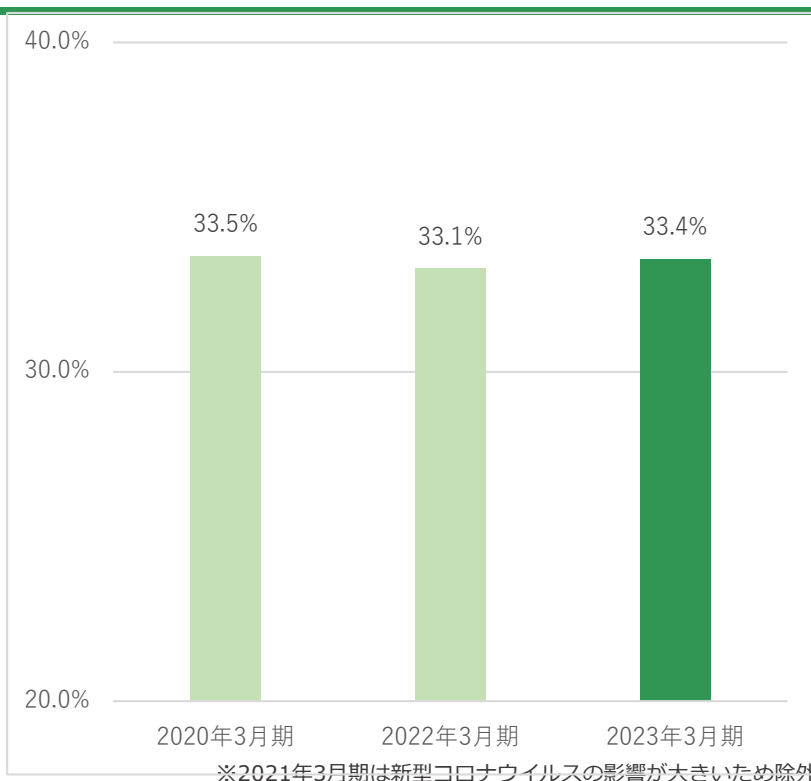
★2022年度単体売上は、約149億円。
超硬耐摩耗工具が主力製品(超硬製品は全体の80.5%)で、
他に銅タン合金・セラミックス製品・ダイヤモンド工具等を
製造・販売しています。

当社の超硬工具の売上 120億円
耐摩耗工具における当社シェア 33.4%

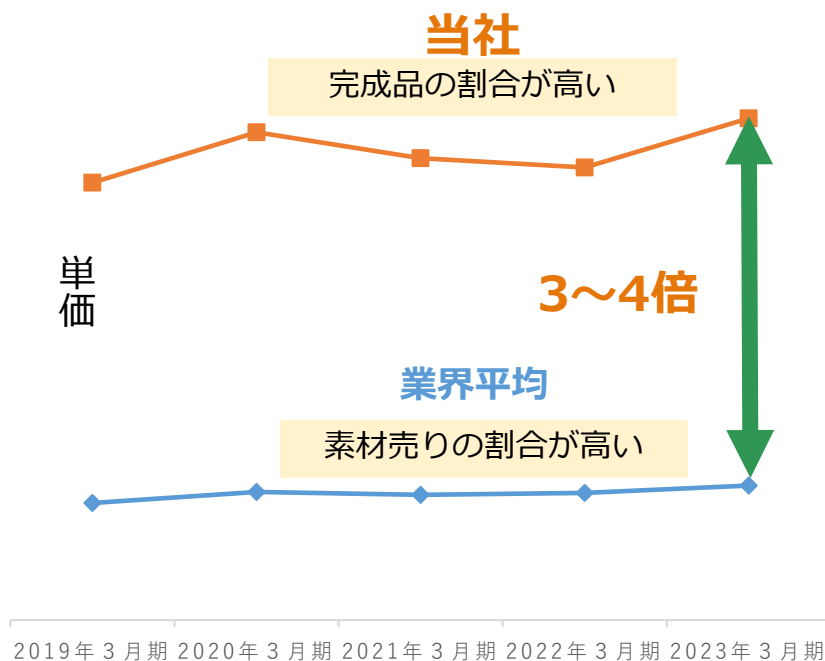
耐摩耗工具専門国内トップメーカー

国内超硬耐摩耗工具業界で当社は長期に亘り、トップシェア（30%超）を堅持
少量多品種の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移

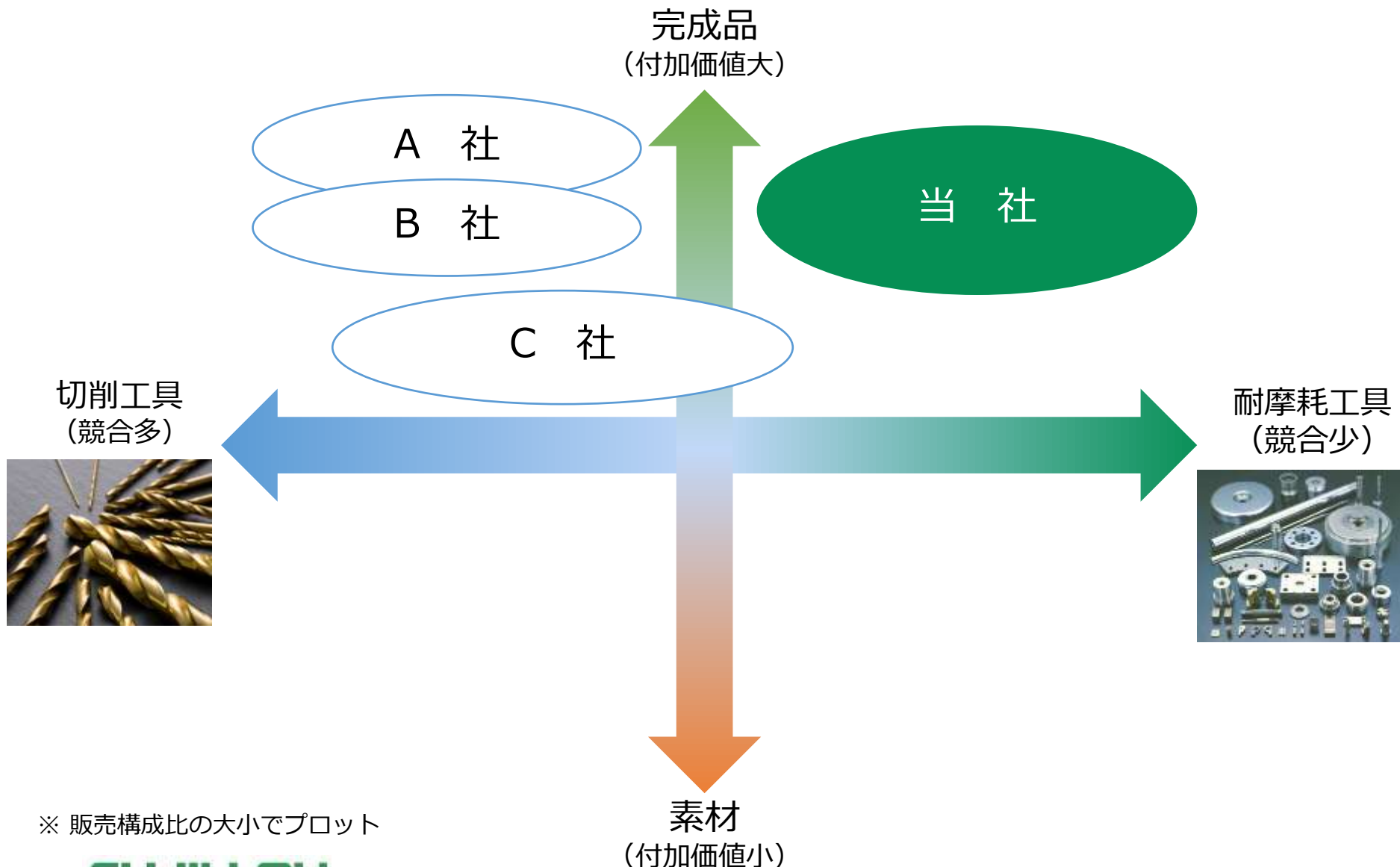


製品の平均単価の推移



出所：日本機械工具工業会

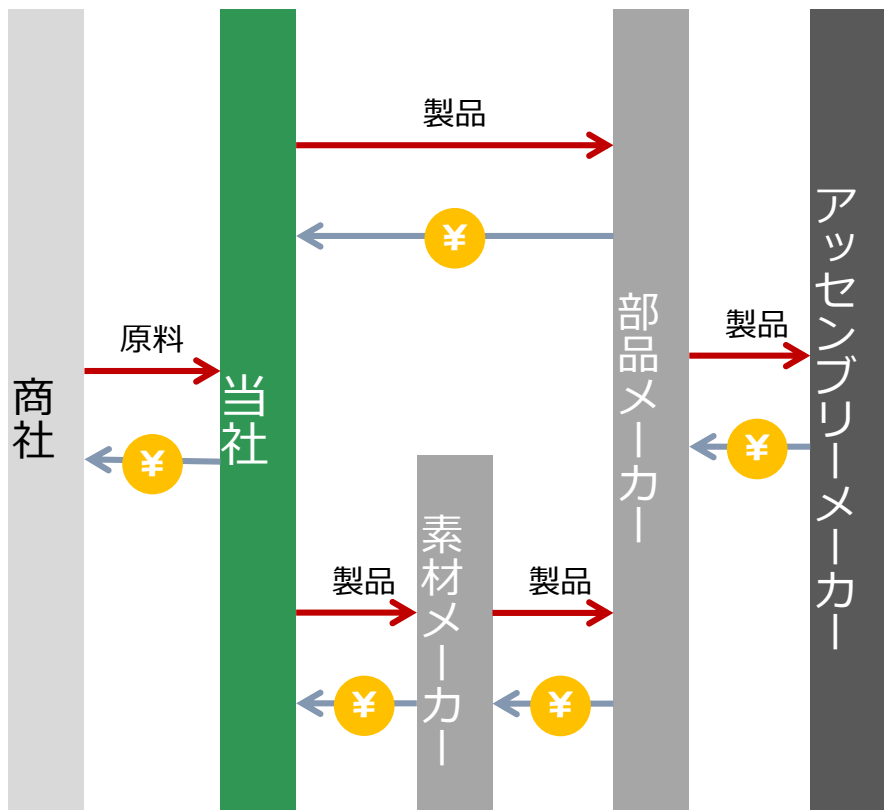
工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



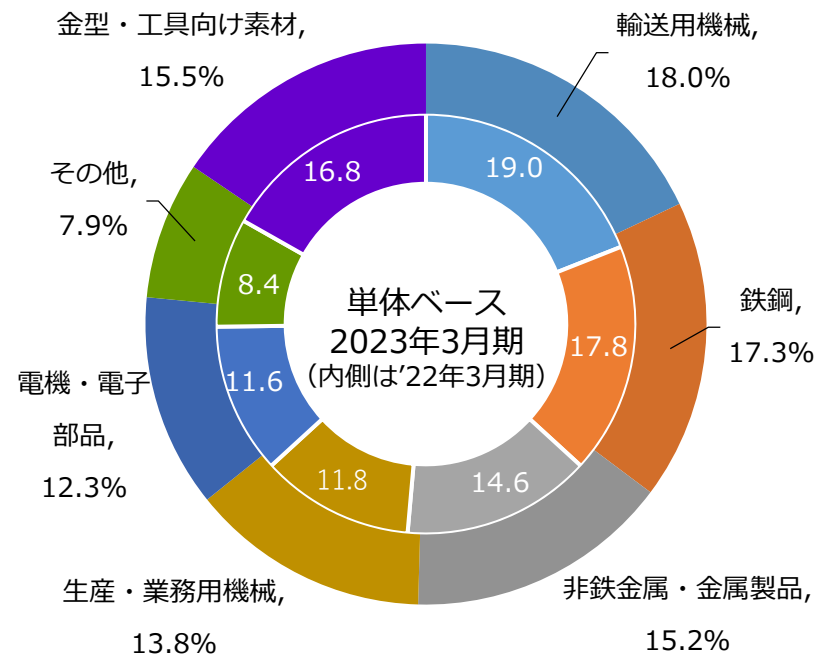
※ 販売構成比の大小でプロット

受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎のカスタムメイドの受注生産・直接販売を行う
 取引社数は約3千社、業種も幅広い
 特定の業界動向に影響されない安定性が強み

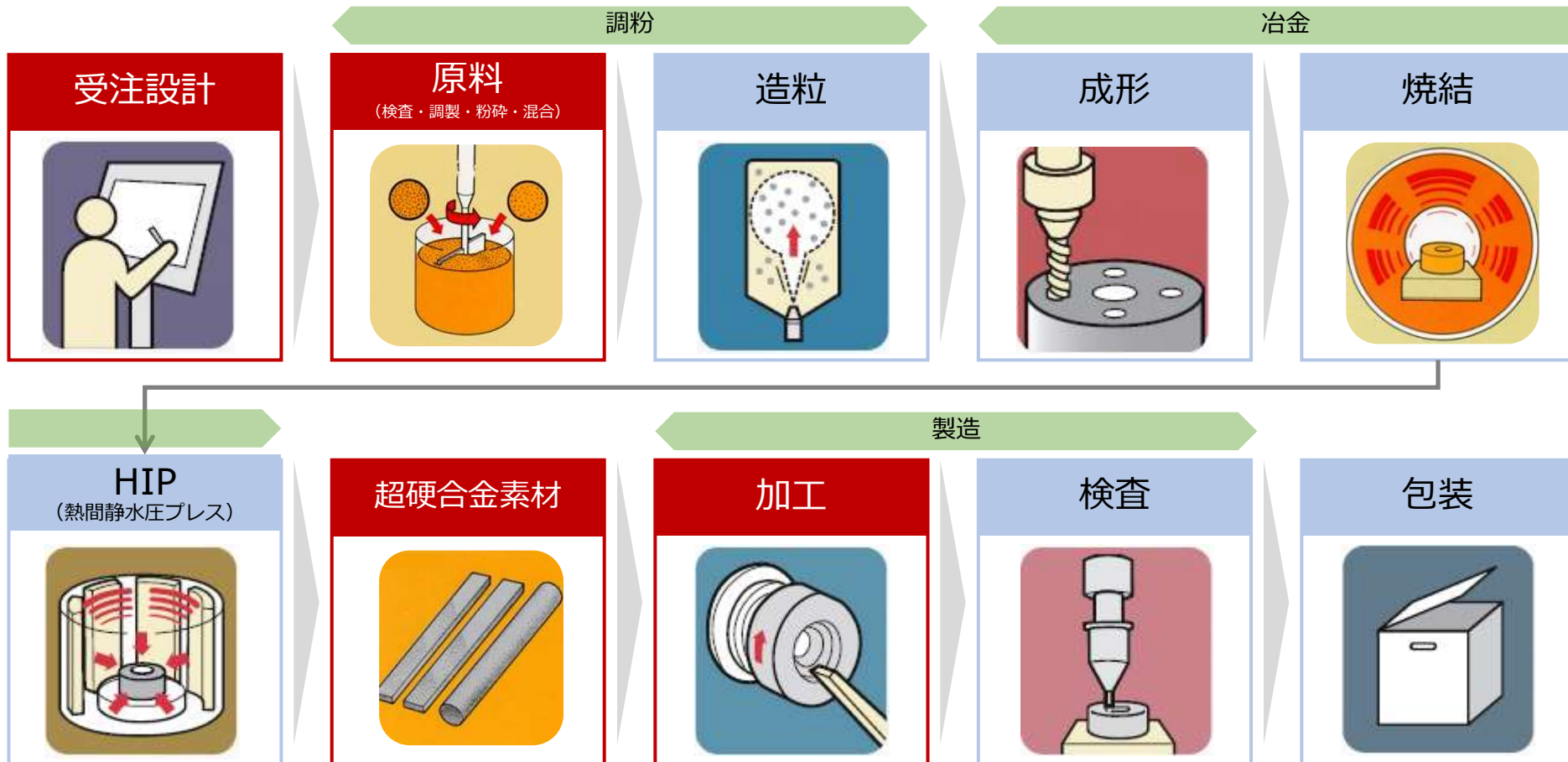


【顧客産業分類区分売上構成(%)】



一貫生産体制により様々なオーダーに対応

- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 高度な粉末冶金技術と加工技術
- 様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



主要製品例



ダイス・プラグ



粉末成形用金型



冷間鍛造用金型



電池関連金型



半導体製造関連工具



ロール



超精密耐摩耗工具



鋼製金型



光学素子成形用金型



混錬工具



超高压発生用工具



セラミックス製品



銅タン合金



電着工具



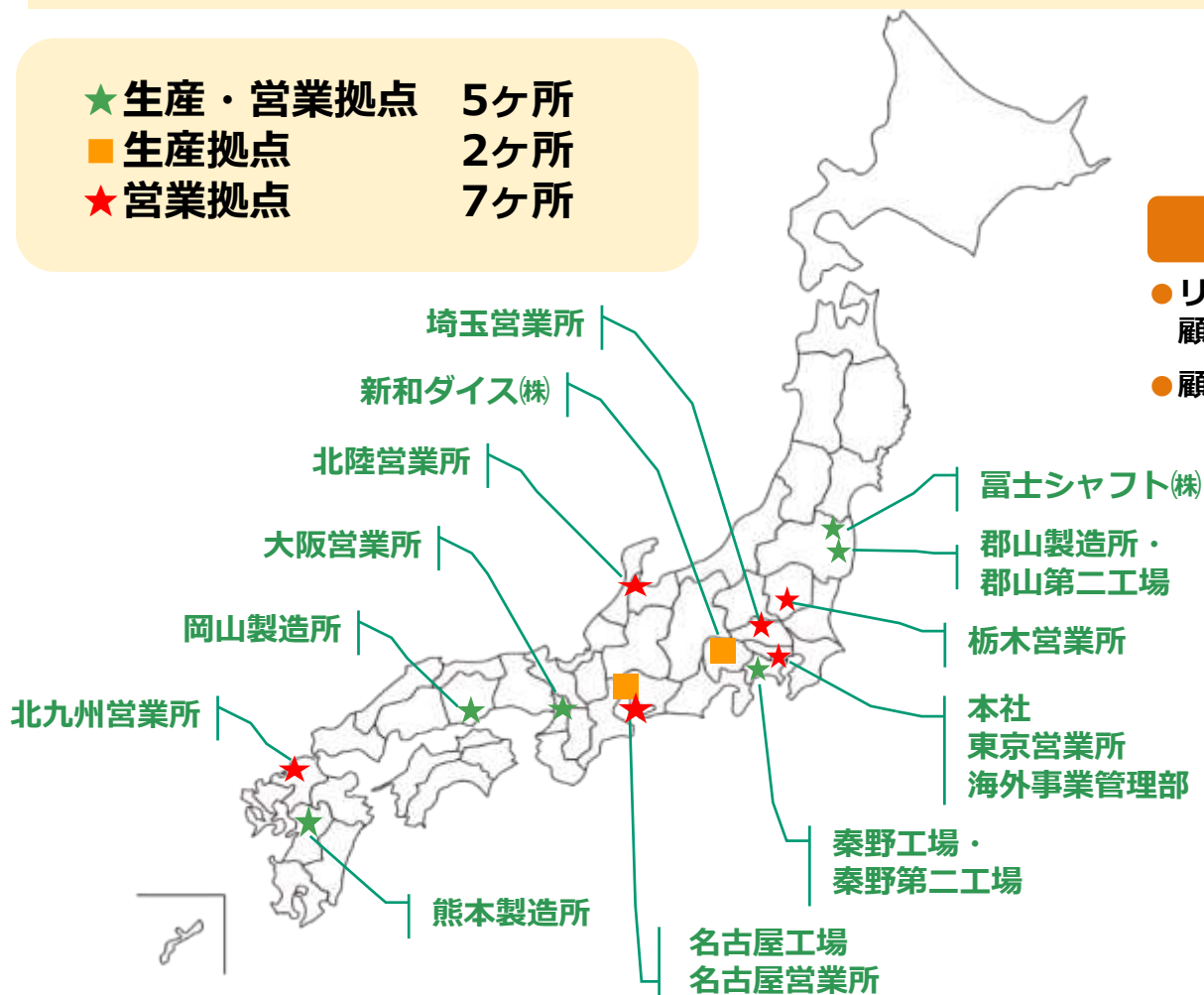
固体潤滑材料NFメタル

拠点ネットワーク（国内）（2023年6月現在）

業界最大の直接販売網を構築

メンテナンス（修理・再研磨）により高いリピート率を実現

- ★生産・営業拠点 5ヶ所
- 生産拠点 2ヶ所
- ★営業拠点 7ヶ所



顧客との強固なネットワーク

- リレーションを強化することにより顧客の要望に対しタイムリーに対応
- 顧客の生産効率アップに繋がる提案が可能

拠点ネットワーク（海外）（2023年6月現在）

- ★生産・営業拠点 2ヶ国（タイ・インドネシア）
- ★営業拠点 3ヶ国（中国・マレーシア・インド）



PT. FUJILLOY INDONESIA

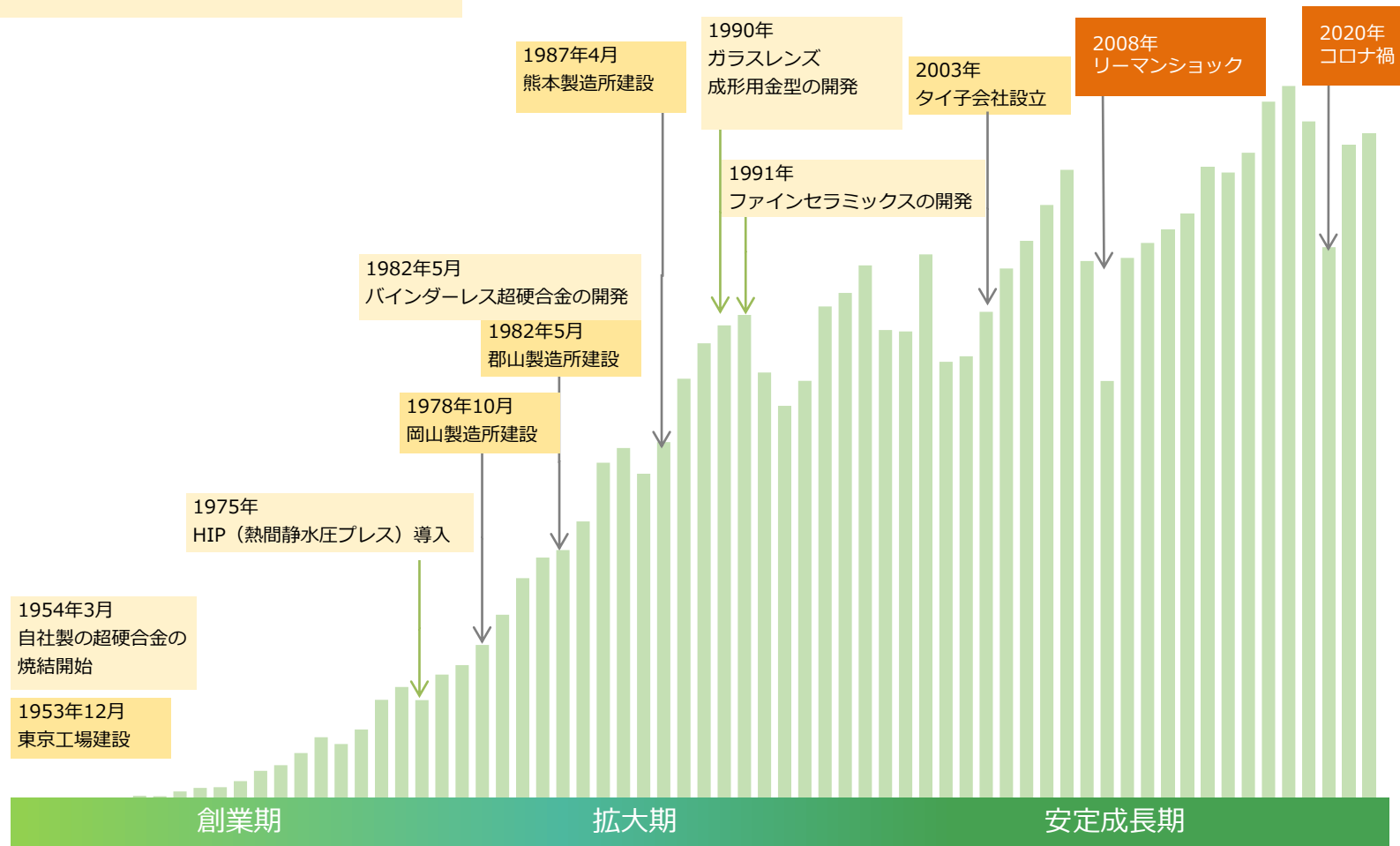


FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD.



主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続

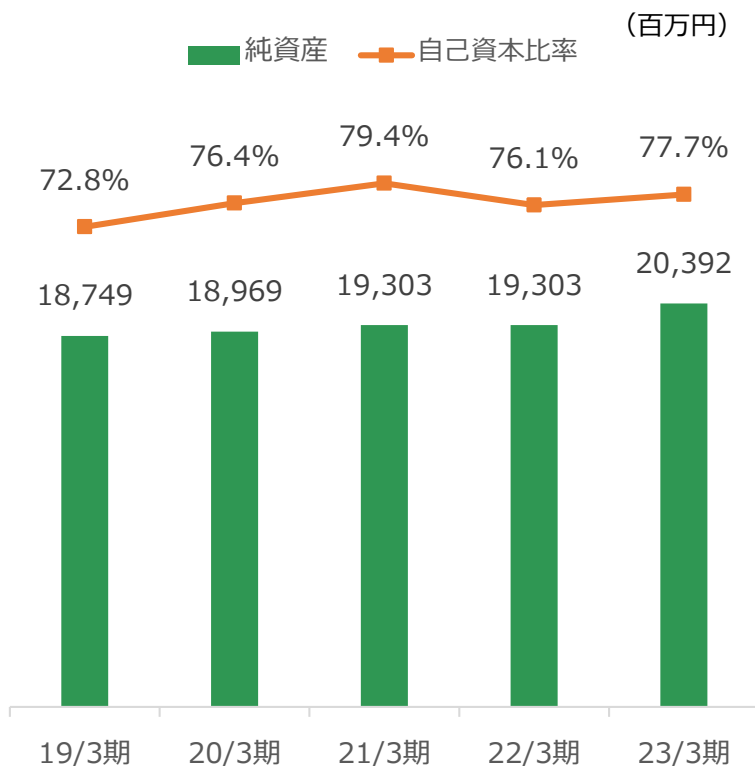


(注) 2012年度以降は連結売上高

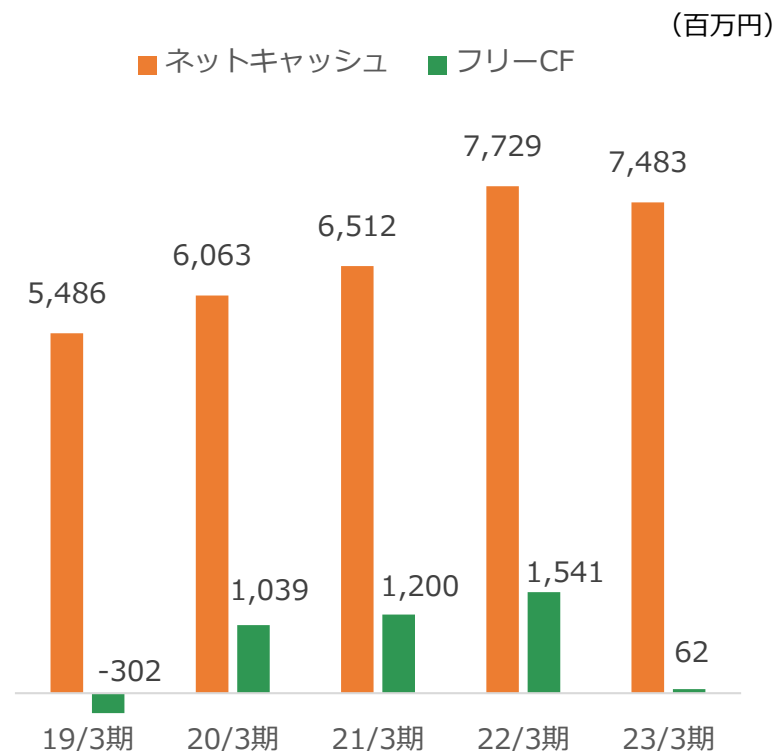
堅固な財務基盤

創業以来現在に至るまで黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持
手元資金も潤沢

純資産・自己資本比率推移



ネットキャッシュ残高・フリーCF推移

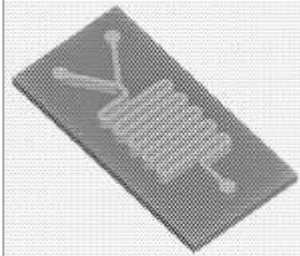


※ネットキャッシュ =
(現預金 + 有価証券)
- (短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金 + 長期借入金 + リース債務)

● 日刊工業新聞
2022年2月28日

富士ダイスは、マイクロ流路を用いた医療用分析デバイス向けのガラス成形金型の開発を始めた。超硬合金の直彫り微細加工技術を採用し、高精度かつ製造時に歪みしやすいのが特徴。同社ではエッチング加工と比べても精度を期待できることであり、医療機器市場での新規顧客拡大を目標とする。

富士ダイス 離型容易なガラス成形金型



マイクロ流路を用いた分析デバイスは、検査など医療や化学分野で普及が進む。富士ダイスでは流路配列のピッチ精度100μm（マイクロは1000万分の1）、流路断面の形状精度5μmを実現できる。また、平板上に微細なマイクロ流路を用いた分析デバイスは、ガラスなどの材料上に形成した微細な流路を利用して分析を行う（マイクロ流路のイメージ）。

な産みを生じたマイクロウェルプレート型の加工も可能。一方、ガラスは高温で成形するため、金型のコア材との熱膨張係数差で冷却時の割れや歪みから取り外せないなどの問題が発生していた。同社は特殊ガラスの成形金型素材として開発した超硬合金と数の高純度材料技術を採用し、こうした問題を解決した。同社は事業領域の拡大を目指しており、マーケティング部門を新設。同部門では売り上げ目標を設け、次の収益の柱となる事業を構築し、新製品・新事業の育成を目指している。今回の分析デバイス向け金型の提案もこの一環となる。



● 熊本日日新聞
2022年4月21日



熊本製造所での冶金棟新設に向けて、南関町と立地協定を結んだ富士ダイスの久保井恒之社長（中央）ら。20日、県庁

富士ダイス熊本南関町に新工場
EV需要増対応
産業用工具・金型製造販売の富士ダイス（東京）は南関町の熊本製造所に、合金素材をつくるための冶金棟を新設する。20日、県庁で同町と立地協定を結んだ。既存の冶金棟が老朽化していることや、電気自動車（EV）の部品向け金型の需要が増えていることから、新棟建設で需要に対応する。

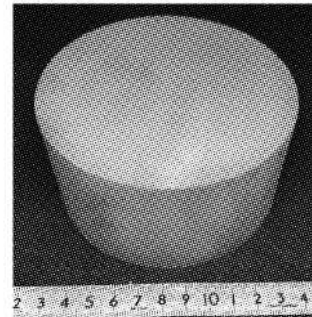
を見込む。地元から新たに5人を雇用する。投資額は18億円。久保井恒之社長は「電気自動車のモーターやバッテリー向けの需要が増えており、付加価値の高い製品を供給していきたい」と述べた。半導体関連の金型や素材も製造しており、台湾積体回路製造（TSMC）が菊陽町に工場を新設することについて「今後、半導体関連の需要増も期待している」と話した。

ニュース記事は、スマートフォンやタブレット端末で右QRコードからご覧になれます。



● 日刊工業新聞
2023年3月3日

レアメタル9割削減 富士ダイス、新合金開発



希少金属の含有量を9割削減した新合金

富士ダイスは汎用の超硬合金に比べタンクくまを汎用超硬と同程度とし、重さはほぼ半量を9割削減した合金を開発した。産出地が偏在する希少金属を抑え、地政学リスクに影響されずに安定供給に貢献する。4

を開発した新合金「サステロイ ST60」は、硬さは硬さ（HRA）が88・2（汎用超硬は88・0・90・0）で、硬さ試験でのクラック長が34μm（同17・45μm）。導電性や磁性があるため放電加工や磁力選別ができる。超硬製の大型金型は重量が大きく取り扱いが課題。サステロイ ST60は重さが超硬の半分と軽量で、回転工具や大型金型を大幅に軽量化できる。超硬合金の主要成分であるタンクステン、高騰の懸念がある。富士ダイスは新合金が地政学リスクや価格高騰にさらされにくいとみており、リスクが顕在化した際には汎合金の代替品になると想定している。

大型金型など大幅に軽量化

02

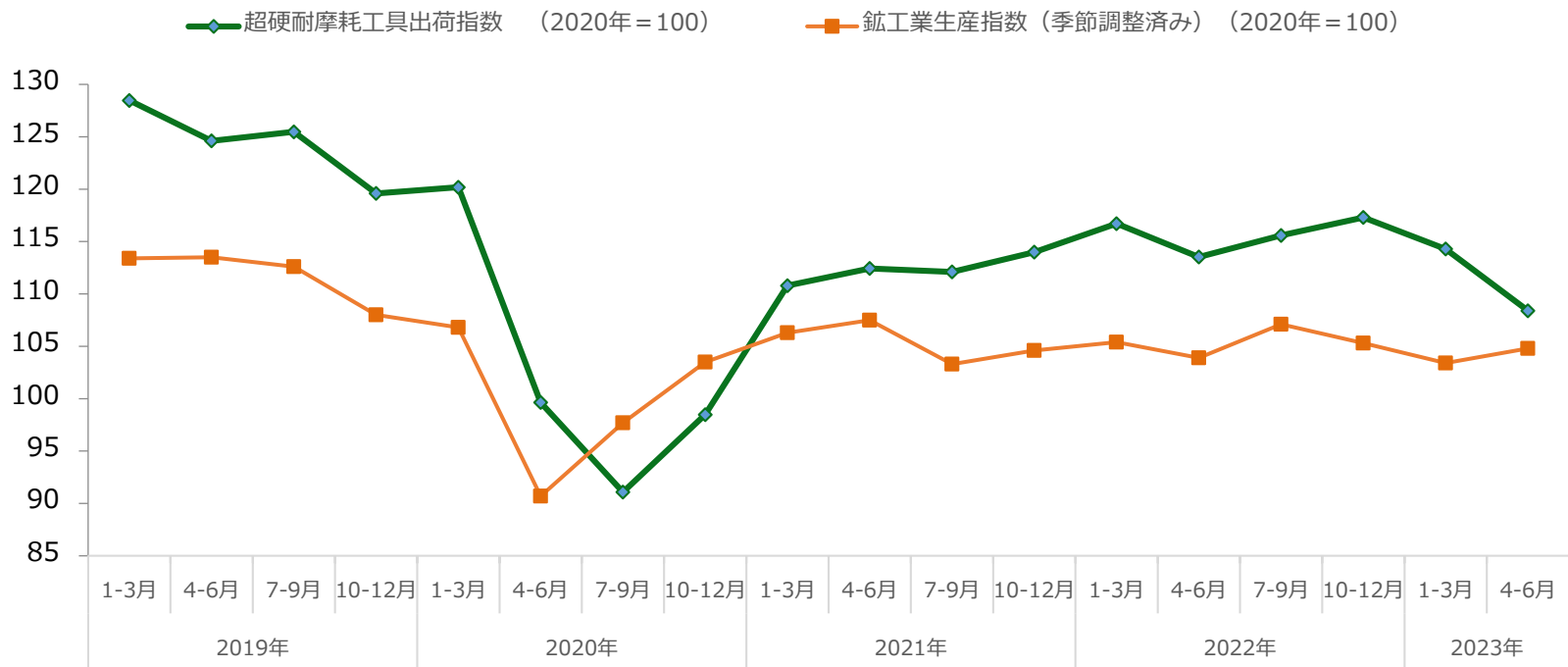
2024年3月期 第1四半期決算概要
2024年3月期 業績予想

2023年6月までの事業環境

鋳工業生産と超硬耐摩耗工具出荷の指数

2020年度と比較すると回復基調にあるが、まだ両指数ともにコロナ禍前の水準には戻っていない

鋳工業生産と超硬耐摩耗工具出荷 指数推移



出所：日本機械工具工業会 『超硬工具統計』
経済産業省 『鋳工業指数』

2024年3月期第1四半期累計期間 総括

連結売上高 4,107百万円 (前年同期比-1.6%)

連結営業利益 290百万円 (前年同期比-9.8%)

■ 連結売上高は前年同期比で微減

■ 連結売上高の減少や電力燃料費の高騰等により減益

売上高	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外向け溝付きロールの需要増 ■ 鋼管用ダイス・プラグの需要増 ■ 原材料、電力燃料等の高騰に伴う価格改定に着手
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国の経済停滞に伴う需要減 ■ 自動車部品関連金型の回復遅れに伴う需要減 ■ 引抜鋼管の需要減
利益	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産性向上・業務効率化の施策に一定の成果 ■ 原材料、電力燃料等の高騰に伴う価格改定に着手
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> ■ 連結売上高減少に伴う利益減少 ■ 電力燃料の高騰等によりコストが増加

2024年3月期第1四半期 連結業績サマリー

売上高：中国の経済停滞や自動車部品関連金型の回復遅れにより微減
営業利益：売上高の減少や電力燃料費の高騰等により減少
経常利益：営業利益の減少に伴い減少
四半期純利益※：前期建物関係の除却損があったことから横這い

	2023年3月期 第1四半期実績	2024年3月期 第1四半期実績	前期増減	前期増減率	業績予想 進捗率	2024年3月期 業績予想
(単位：百万円)						
売上高	4,175	4,107	-68	-1.6%	23.1%	17,800
営業利益	322	290	-31	-9.8%	24.9%	1,170
営業利益率	7.7%	7.1%	-0.6%	-8.3%		
経常利益	365	331	-34	-9.3%	27.0%	1,230
経常利益率	8.8%	8.1%	-0.7%	-7.8%		
親会社株主に帰属する 四半期純利益	241	237	-3	-1.6%	26.6%	890
親会社株主に帰属する 四半期純利益率	5.8%	5.8%	0%	0.0%		
1株当たり 四半期純利益/当期純利益	12.17円	11.95円	-0.22円	-1.8%	-	44.87円
自己資本比率	77.7%	77.4%	-0.3%	-		
	(2023年3月期末)					

※四半期純利益は「親会社株主に帰属する四半期純利益」となります

財務の状況 連結貸借対照表 増減分析

現金及び預金が286百万円減少したことにより流動資産は429百万円減少
 建物及び構築物が149百万円増加したことにより固定資産は67百万円増加

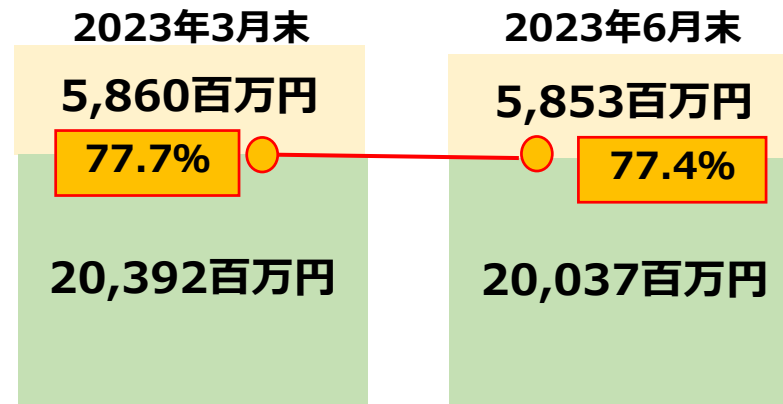
財務状況

2023年6月末 ※ () は2023年3月末との差

資産 25,891百万円 (-361百万円)	負債 5,853百万円 (-6百万円)
	純資産 20,037百万円 (-355百万円)

単位：100万円	2023年3月末	2023年6月末
流動資産	15,724	15,295
固定資産	10,528	10,595
資産合計	26,253	25,891
流動負債	4,197	4,187
固定負債	1,662	1,665
負債合計	5,860	5,853
純資産合計	20,392	20,037

負債・純資産・自己資本比率



項目	金額
現金及び預金	6,285百万円
原材料及び貯蔵品	1,466百万円
建物及び構築物（純額）	3,748百万円
建設仮勘定	1,059百万円
短期借入金	34百万円
長期借入金	-
退職給付に係る負債	1,615百万円
利益剰余金	19,423百万円
その他包括利益累計額	555百万円

今後の見通しと業績予想

原材料価格や電力燃料費の高騰、設備投資によるコスト増を、拡販と販売価格への転嫁により吸収し、営業利益は微増を計画

営業利益
11.7億円
(前期比1.7%)

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期 業績予想	前期比
売上高	17,179	17,800	3.6%
営業利益	1,150	1,170	1.7%
経常利益	1,225	1,230	0.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	※1 1,292	890	-31.1%
減価償却費	920	991	7.7%
その他設備関連費用（修繕費等）	391	※2 494	26.3%
設備投資額（有形・無形固定資産合計）	1,637	1,830	11.7%

※1 固定資産の売却に伴い632百万円を特別利益として計上

※2 うち熊本製造所新冶金棟建設関係：約80百万円

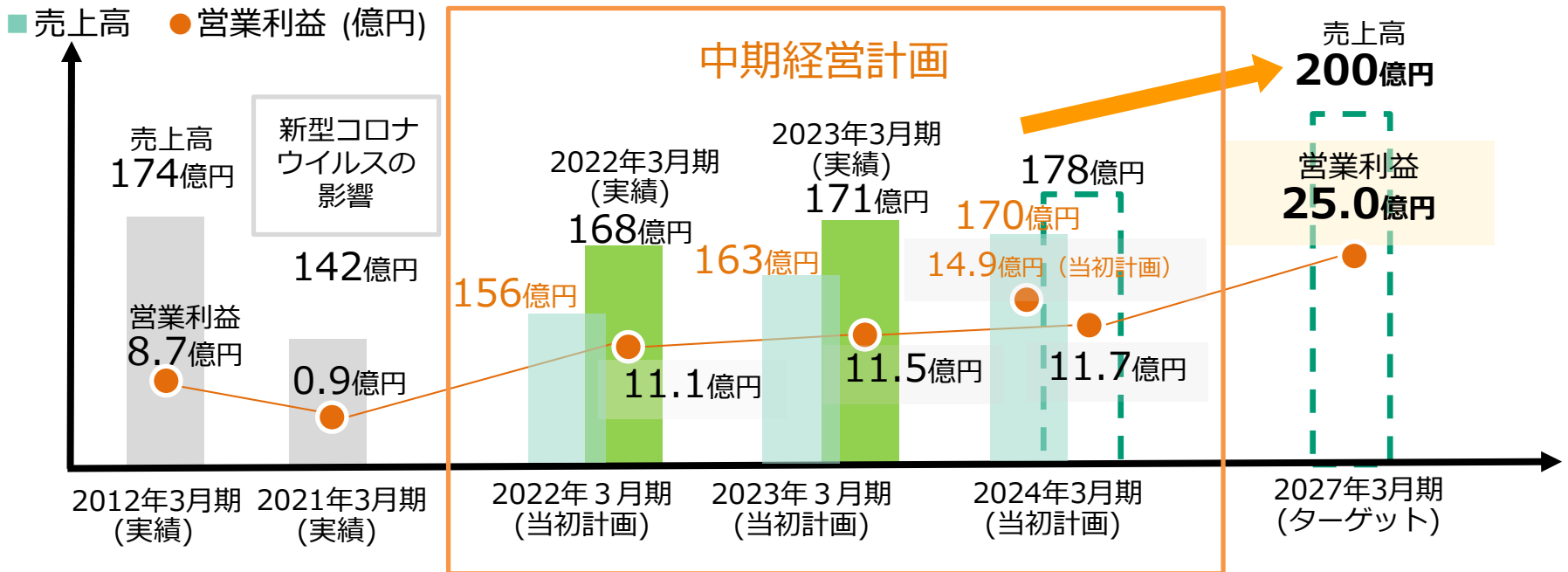
03

中期経営計画における成長戦略

中期経営計画（2022年3月期-2024年3月期）の位置づけ《連結》

【フェーズ1：2024年3月期】 連結売上高：170億円、営業利益：14.9億円

【フェーズ2：2027年3月期】 連結売上高：200億円、営業利益：25.0億円



フェーズ 1

- ・ コロナ禍からの回復
- ・ 筋肉質な企業体質への転換
- ・ 次世代新製品・新事業の育成・深耕
- ・ 海外事業の強化

フェーズ 2

- ・ 売上高拡大、更なる利益(率)の拡大
- ・ **営業利益率12.5%以上**

中期経営計画の達成に向けて

フェーズ2
(2027年3月期)

売上高
200億円

営業利益
25億円

収益性を維持しつつ、トップライン拡大を狙う

フェーズ1
(2024年3月期)

売上高
170億円

営業利益
14.9億円

生産性向上・業務効率化が収益性の向上に寄与

【生産性に関する取り組み】

- ・ 1人当たり生産性の改善
- ・ ITインフラの整備
- ・ 拠点再編の検討

✓ 1人当たりの生産能力向上による**生産量増加及び収益性の向上**

① 生産性向上・業務効率化

【開発に関する取り組み】

- ・ 市場ニーズの把握
- ・ 開発スピード向上
- ・ 自前主義からの脱却

✓ 高付加価値製品の開発・拡販により**トップラインを拡大**

【販売に関する取り組み】

- ・ 自動車産業の変化に対応した製品ラインアップの拡充
- ・ 海外事業のプレゼンス拡大

② 次世代自動車への対応・拡販 ④ 海外事業の強化

✓ 需要の高まる分野・地域への注力により**トップラインを拡大**

③ 新成長エンジンの創出

～基本コンセプト～

筋肉質な企業体質への転換、中長期の成長基盤の構築

1 生産性向上・業務効率化

生産プロセスの改善、ITを活用した業務効率化により、利益が出せる少数精鋭による筋肉質な体質を目指す

- ・ 外部コンサルタントを活用した生産効率の改善
- ・ ITを活用した営業手法の導入
- ・ 基幹システム、グループウェア刷新等のITインフラ整備
- ・ 生産拠点の見直しによる拠点再編の検討
- ・ 自立型人材の育成

3 新成長エンジンの創出

顧客の新たな価値創出につながるソリューション提供により、市場ニーズを先取りした高付加価値製品の開発

- ・ マーケティング部門と製品開発部門の融合
- ・ 大学や外部研究機関、取引先開発部門との共同開発などのオープンイノベーションの推進
- ・ M&A、業務提携の検討

2 次世代自動車への対応・拡販

市場動向に即したソリューション提供による顧客の主要サプライヤーとしての地位確立

- ・ マーケティングによる選択と集中（モーター関連製品、電池関連製品は特に注力）
- ・ 販売/生産/研究開発部門の三位一体となった取り組み
- ・ 材料開発等による積極的な試作品の投入

4 海外事業の強化

アジア地域を中心とした海外売上高の拡大、管理機能の強化による海外子会社の経営安定化

- ・ ローカル人材の育成、オンラインを活用した販売活動
- ・ 海外製造拠点（タイ、インドネシア）の生産性向上、技術・技能の向上によるアセアン地域における競争力向上
- ・ 中国における販売拠点の拡大

重点施策 ①製造部門における生産性向上・業務効率化

高品質を維持しながら、より少ない時間で、より多くの製品を作ることを目指す

2024年3月期目標 原価率4.4%低減 (2020年3月期第2四半期比)

①自動搬送装置の導入

郡山製造所に自動搬送装置を導入
(2023年6月～)

②自動化ロボットの夜間稼働

郡山製造所の冶金作業に自動化ロボットを導入 (2023年7月～)

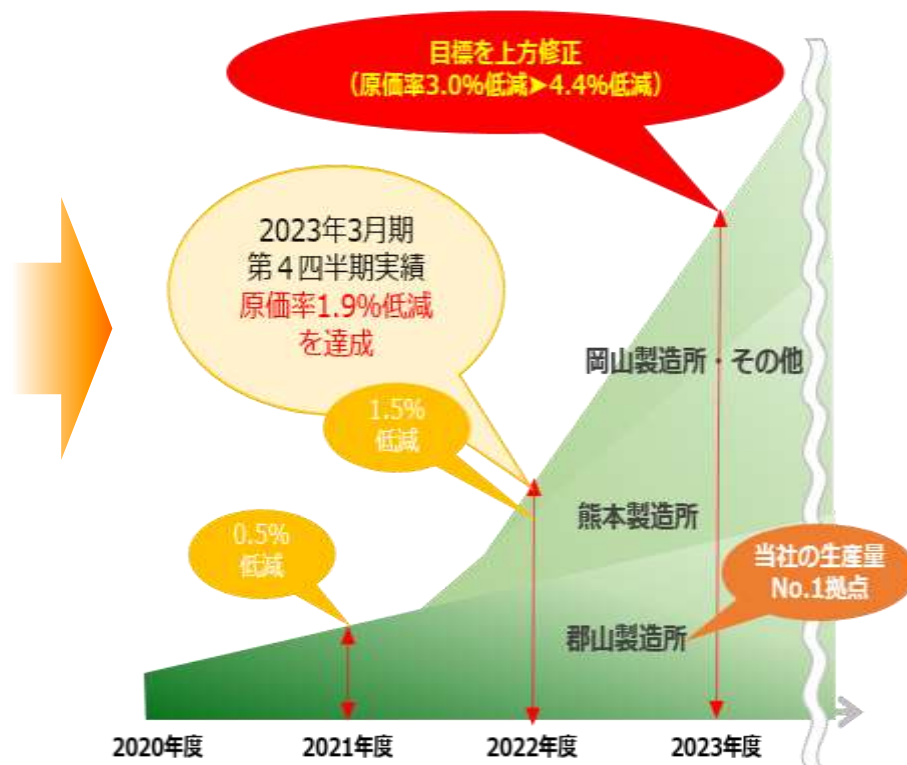
③加工条件の標準化

加工条件を最適化するとともに標準化することで、作業効率を向上

④レイアウト最適化

熊本製造所の冶金棟のリニューアル、各工場でのレイアウト変更

生産性向上・業務効率化の効果イメージ



重点施策 ②次世代自動車への対応・拡販～ 成長分野製品への対応～

高精度・長寿命が求められ、当社が優位な製品分野で更なる拡販

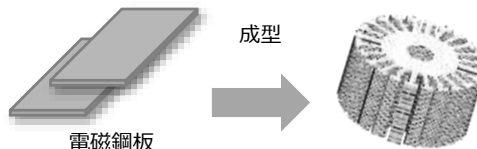
当社の強み

二次電池



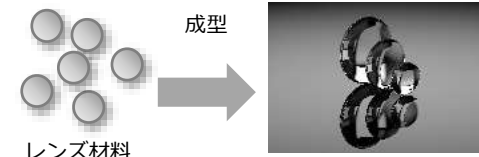
- ① 高精度な丸形状金型の加工技術
- ② 生産供給能力

モーターコア



- ① 精密プレス用金型で培った、顧客ニーズに沿った材料開発技術
- ② 従来材種と比べ、高い硬さと高靱性を両立した新材料を開発

ガラスレンズ



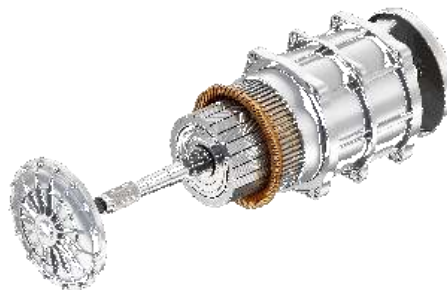
- ① 撮像ガラスレンズ用金型で培った、鏡面性、被加工性に優れた材料
- ② 特殊ガラスの特性に合わせた金型用新材料を開発

xEV用二次電池



- 世界的なカーボンニュートラルへの対応が進み、自動車においては二次電池の需要が増加

モーター



- 自動車のEV化により、動力源として駆動用モーターの需要が増加

車載カメラ



- 自動車のセンシング対応による車載レンズの増加や、コロナ禍による高画質の動画配信等、趣味への投資により、ガラスレンズの需要が増加

最終用途

重点施策 ③新成長エンジンの創出～新製品開発・新技術開発

- ・分析用デバイス成形金型の加工技術、省タングステン・コバルト合金の開発を推進
- ・サステロイST60は、各方面から問い合わせをいただき試作品を出荷、顧客評価中

分野	概要	進捗状況	販売時期(計画)		
			2022年	2023年	2024年
医療・化学	①② 分析用デバイス成形金型	① バインダレス合金 ② 高熱膨張材 (TR合金)	→	→	→
環境・エネルギー	③ CO ₂ 還元用触媒	③ 第三者と共同開発 (試作品評価中)	→	→	→
	④ 水素発生触媒	④ 試作準備中	→	→	→
高性能レンズ	⑤⑥ 省タングステン・コバルト合金 (サステロイST60)	⑤ 材料開発完了 (特許出願) ⑥ ラインナップ化	→	→	→
	⑦⑧ 高熱膨張レンズ用金型(TR合金)	⑦ 販売中 ⑧ 大径品検討中	→	→	→
積層造形 (3Dプリント)	⑨ 造形技術の確立 (3D造形技術による超硬合金への適用)	⑨ サンプル試作 (QCD試算中)	→	→	→

粉末冶金技術を軸に、顧客ニーズに合わせた多種多様な高機能材料を開発



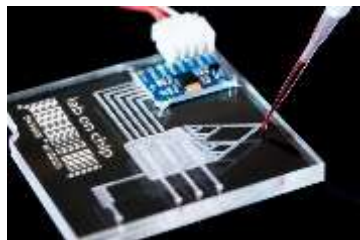
※ 下線はオープンイノベーションを実施中。

---> 点線矢印：試作・開発中
 —> 実線矢印：販売中

重点施策 ③新成長エンジンの創出～新製品開発・新技術開発

●医療・バイオ分野（マイクロ流路金型）

最新鋭設備と加工技術を融合させた業界トップレベルの形状精度



マイクロ流路チップ
(ガラス製)

形状精度

- 最小流路幅 50μm
- 流路ピッチ精度 1μm
- 表面粗さ Ra5nm

用途

- 分析用デバイス

●環境・エネルギー（サステロイST60）

超合金の1/2の重量で、超合金に迫る硬さを実現した新材料



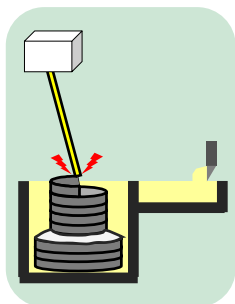
サステロイST60

特徴

- 希少金属であるタングステン・コバルトの使用量を9割削減
- 鋼より軽量でありながら、超合金に迫る硬さ・靱性を実現
- 鋼製工具の摩耗や、セラミックス工具のカケ・ワレ対策に最適

●3Dを活用した超合金の積層造形技術

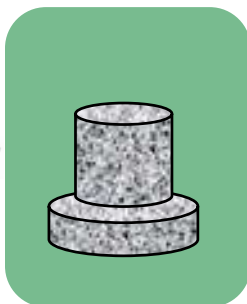
間接造形法を中心に開発



積層造形



真空焼結 +HIP処理



焼結素材

課題

- 当社専用の造形粉末の開発
- 生産ラインへの導入

期待効果

- 製造工程の簡略化
- 製品の均質化
- 環境配慮（切削屑の削減）

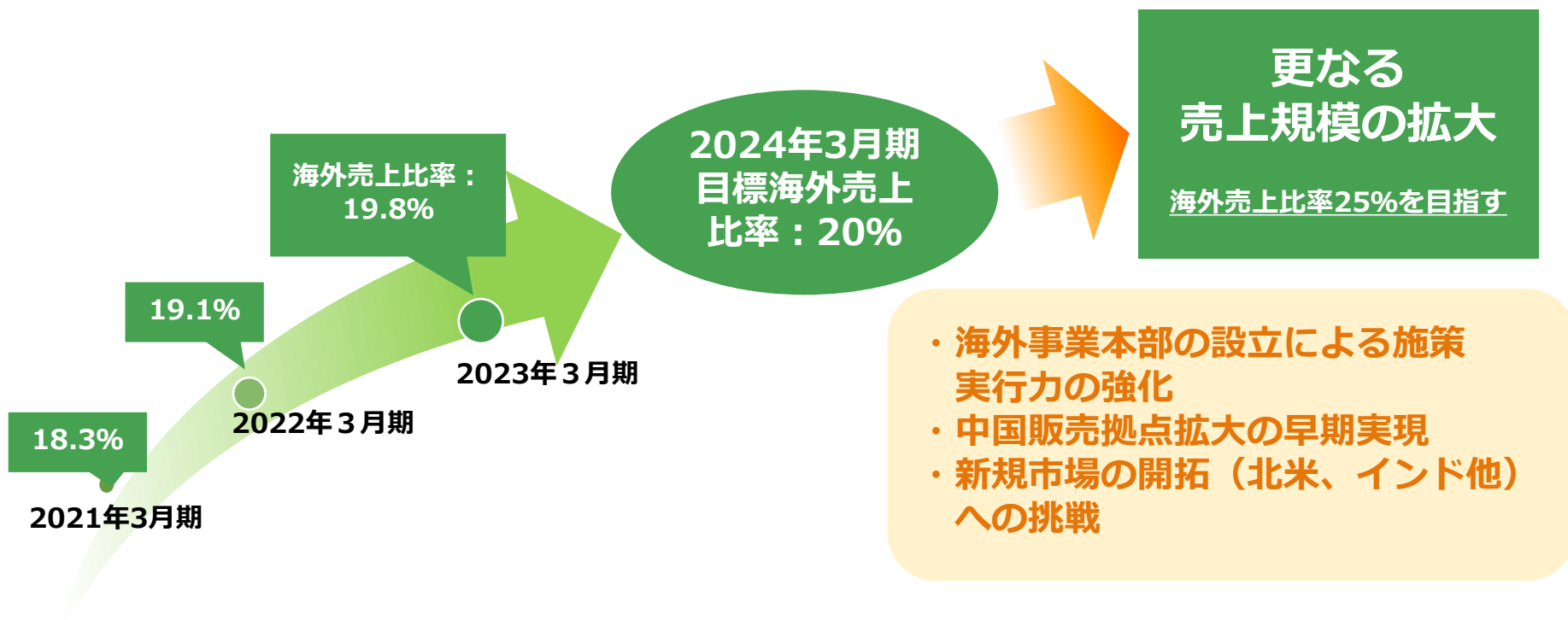


流路を有する積層造形体の作製条件を確立

重点施策 ④ 海外事業の展開

- ・ 2023年7月に海外事業本部を設立、担当役員を擁立
海外事業の強化を推進

海外事業の将来像



ESGの取り組み

当社グループは、「事業を通じて広く社会に貢献し、幸せな人を育てる」という企業理念に基づき、新たに策定・開示した**サステナビリティ基本方針**に沿って、環境負荷軽減や地域との共生など持続可能な社会の実現に向けた**企業統治**や諸活動を行っています。

Environment 環境

- **サステナビリティ委員会の設置**
- **情報開示の充実（CDPへの回答、TCFD開示）**
- 環境調和型製品の提供（日本機械工具工業会による環境調和認定製品7種類）
- 環境配慮製品への切り替え（FSC認証紙やベジタブルインキなど）
- 社用車のエコカーへの切り替え（2022年3月時点で60%切り替え済み）
- 環境関連法令順守の維持・継続（排水、排気、騒音、廃棄物、化学物質等）
- フジロイ・タイランドがCSR-DIW受賞（緑化、ボランティア活動、低所得者就労支援）
- 省タングステン・コバルト合金の開発



【フジロイ・タイランドCSR-DIW受賞】



【フジロイ・タイランド緑化活動】



【フジロイ・タイランド就労支援】

ESGの取り組み

Social 社会

- 地域社会との共生（献血活動の継続、おたオープンファクトリー、小学校への出張授業）
- 福祉施設への寄付・慰問
- 品質マネジメントシステム認証取得（2002年11月にISO9001認証取得し、継続登録）
による顧客満足度向上の持続的な改善
- 障がい者雇用の環境整備（障がい者農園を活用した野菜生産）

Governance 統治

- 企業理念、大切にしている価値観、長期ビジョンの策定と公表
- コンプライアンス・リスクマネジメント対応（2か月に1回、コロナ対応含め対策会議を実施）
- コーポレート・ガバナンス報告書を適時更新し開示
- BCP(事業継続計画)の策定と定期的な見直し
- 指名・報酬委員会の設置
- 独立社外取締役を3分の1以上選任
- 譲渡制限付株式報酬制度導入（社内取締役対象）



【小学校での出張授業】



【農園での収穫祭】



【農園での収穫の様子】

中期経営計画の成長戦略

重点施策の推進	経営基盤の強化
<p data-bbox="312 361 832 454">筋肉質な企業体質への転換 中長期の成長基盤の構築</p> <ul data-bbox="202 504 807 853" style="list-style-type: none">①生産性向上・業務効率化②次世代自動車への対応・拡販③新成長エンジンの創出④海外事業の強化	<ul data-bbox="985 461 1690 803" style="list-style-type: none">・健全な財務基盤をもとにした資本効率性の向上・サステナビリティ基本方針に沿った企業統治・活動の推進・コーポレート・ガバナンスの強化



ROEの持続的向上とPBRの改善を目指す

04

株主還元・配当

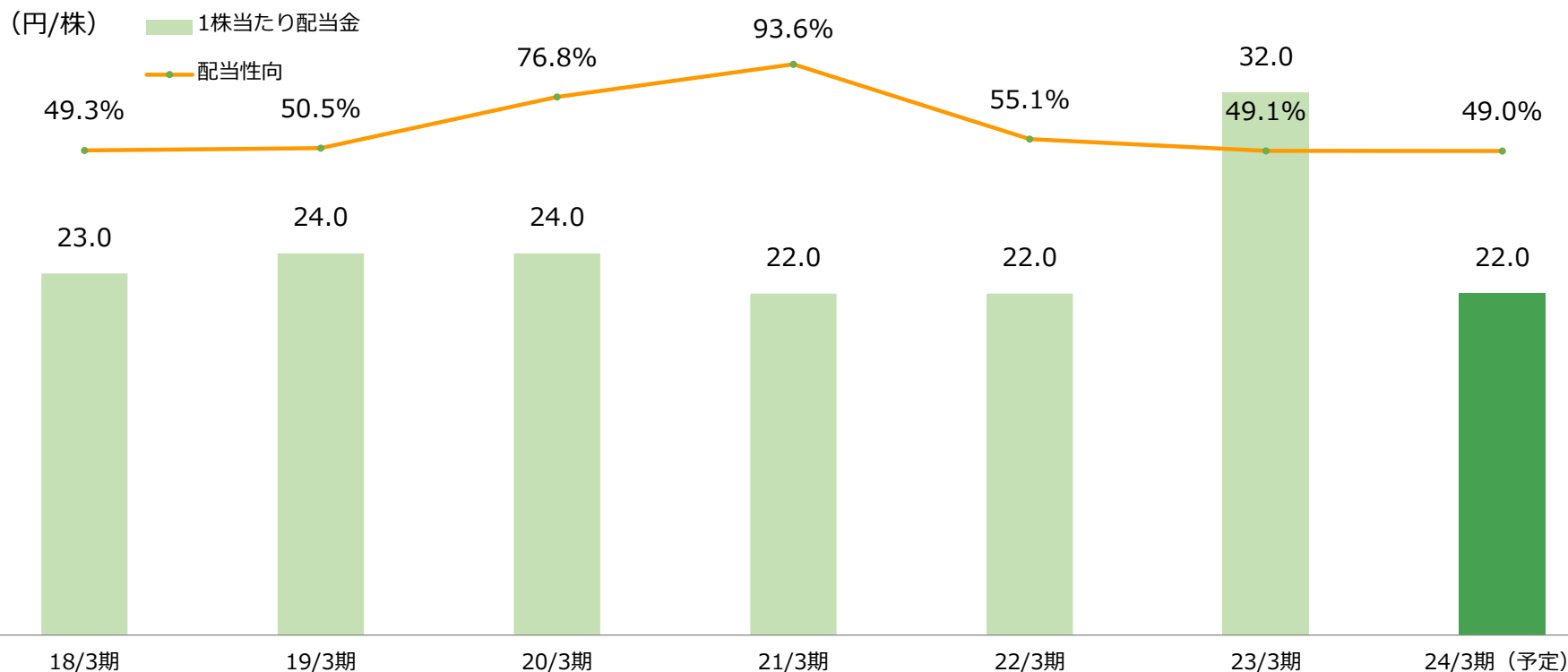
株主還元・配当

・ 2024年3月期は一株当たり22円

年間配当金
22円

【利益配分に関する方針】

安定配当の継続を重要な経営課題の一つとし、利益の状況、将来の事業展開、財政状態及び経営成績を勘案し、配当性向50%を目途に還元



当社IRサイトのご紹介

当社ホームページ「投資家情報」ページに業績ハイライトや開示資料を掲載



当社ホームページ
<https://www.fujidie.co.jp/>

ぜひ、ご覧ください

免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。